平成24年12月1日
第 67 号

# やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 黒瀬和美
電話 972・5819



どうして麦を植えるのですか

## 多くの人に大切な食料を提供するため

11月20日、上郷小学校3年生が「冬の農作業」を学びに八方原にやってきました。今回は麦の植え付けをお見せすることにしました。折から農事組合法人八方原では、９ｈａの麦の植え付けを11月15日から始めていました。

作業の説明には法人の代表原田憲一郎さんが当たりました。「みんなは麦を見たことがありますか」と尋ねると給食で出される麦ごはんのことを答えていました。ただ実際の麦の穂を見せると、興味深そうに手に取っていました。また、植え付けたのちの作業についても説明しました。管理機の長い腕にもみんなびっくり。

児童からはいろいろな質問がありました。麦はどこに行くのか、育てるのに何が一番難しいか、どうして麦つくりをやろうとしたのか。どれも、難しい質問ばかりでしたが。代表は丁寧に答えていました。

今回来てくれた3年生は昨年の夏に田植えを見学に来てくれた児童です。9月には稲刈りの見学もありました。多くの方に農作業に親しんでいただくことも、私たちの務めでしょう。

3年生70余人にとって植え付け用の麦に触れる機会はめったにないはず。稲わらと麦わらの違いも手に取って感じてくれました。麦の種類についても説明し、大部分がパンやうどんの原料になることなども説明しました。

## えっ本当 八方原に鹿が出た

### 招かれざる鹿



背後には雌鹿もいたことから、小鹿もいるか

鹿というと奈良公園や、宮島のかわいらしいイメージがありませんか。野生の鹿は、実際には農作物の被害など大きな問題になっています。山口県では西部や北部で農業被害が深刻になっていることが伝えられていました。

11月3日、畑で作業中の菊本弘志さんは、何かの視線を感じたといいます。顔を上げてびっくり、雄鹿が作業をうかがうように立っていました。慌ててカメラを手にしてシャッターを切ったのが、上の写真です。

桂ヶ谷地区には、鹿の出没が噂されていましたが、椹野川の東側に現れることとなりました。農産物への被害が心配されます。

# 米と電気は自分で創りたい

「平成24年度農村環境の未来を考える研修会」が11月15日、山口県総合保健会館で開催されました。この研修会は農地水環境向上対策に取り組む団体を対象に行われます。

毎回先進的な取り組みについて、基調講演をいただきますが、今年の講演内容は規模も桁違いの大きなもの、しかも目指すものがはるかに高い次元のものでした。


満員の大ホールの聴衆を前に堂々の星野さん

栃木県那須塩原市にある「那須野ヶ原土地改良区連合」の参事、星野恵美子さんが、4万ヘクタールもの農地に繰り広げるエネルギー政策について説明をしてくれました。「米と電気は自分で創りたい！」というのがテーマです。農地の勾配と水路を利用して、小型水力発電所を設置し、その電力を販売することで、国営事業の土地改良に対する受益者負担金を半減させていました。

星野さんは市の職員だったのですが、あまり人と話をするのが得意でなかったので、土地改良区の事務に転職したのです。そこで経理を担当するようになって、補助金漬けの運営に愕然としました。しかし、農業には全く知識も経験もありません。

土地改良事業の終盤に、土地の高低差を利用した小型水力発電所が設けられました。しかしこの運営には資格が必要です。星野さんは「ダム水路監理技術者」や発電所の電気設備に必要な資格も取得しました。それらは何とか自立した組織にしなくてはならないと思っていたからです。その後も次々と発電設備を設置し、現在では5か所で合計1000kwを発電するまでになっています。水力だけにとどまらず、木質バイオマス発電の実証実験、大規模な太陽光発電設備などを完成させました。こうした事業には補助金が欠かせませんが、農林水産省、国土交通省、経済産業省、環境省、内閣府までにも及んでいました。

全ての発電施設は経済性が最優先されました。つまり発電した電力を売って、利益が出ないようなものはやらないという姿勢です。

「先人たちの努力に報いるために、広大な土地改良区を守る」という熱意が感じられた事例報告でした、

さまざまな県民活動を資金面で援助してきた「きらめき財団」が、他の財団と合併し公益財団法人「山口きらめき財団」となり今年4月、再スタートしました。11月13日、記念行事が秋吉台国際芸術村で行われました。

これまでの顕著な活動団体や個人の表彰が行われ、当地区の中村善夫さんも登壇されました。中村さんは「硝友会」のメンバーとして長年、高齢者の生きがいづくりや、居場所づくりに貢献されたことが高く評価されました。

おめでとうございます。これからも益々ご活躍をお祈りいたします。

## 長年の活動　ご苦労さまでした


表彰状を手にする中村さん

## 花壇の植え替え「ビオラ」に


来年の春までしっかりお世話いたします

夏の間、咲き続けてくれたサルビアなどの花を冬の花「ビオラ」に植え替えしました。

11月3日、半年間咲き続けてくれた花々を引き抜き、花壇の土を掘り起こして、固まった土壌を柔らかい土に作り直しました。何色かのビオラをバランスよく植えていきました。